



社会福祉法人 大沢愛育会 大沢保育園

施工地／岩手県下閉伊郡山田町大沢8-19-2
竣工年月／平成25年3月
敷地面積／1,099.72㎡
延床面積／340.92㎡
構造／木造平屋建

ご支援を心から『ありがとうございます』

岩手県沿岸部の陸中海岸中央部に位置する山田町は、沖合に親潮と黒潮が交差する世界でも有数の漁場を有し、牡蠣やホタテなどの養殖漁業を中心とした、豊かな海洋資源に恵まれる漁業の町であります。平成23年3月の東日本大震災では津波とその後発生した火災により甚大な被害を受けましたが、現在は世界各国の支援や日本全国の皆様からのご支援により、復興の歩みを着実に進めております。

山田町大沢地区にある、社会福祉法人大沢愛育会様の大沢保育園は、東日本大震災で園内に津波が押し寄せ、建物の一部が浸水し、また地盤沈下に伴い施設が傾くなど、築後50年が経つ園舎は大きな被害を受けました。震災から2年が経過した平成25年3月に誕生し再開した大沢保育園新園舎は、台湾赤十字組織より日本赤十字社に寄せた海外救援金や、岩手県と交流提携を結んでいるドイツのラインライト・プファルツ州からの支援金により、総工費全額のご支援をいただき竣工することができました。子どもたちの笑顔が戻ってきた新園舎です。ご支援を心から「ありがとうございます」。



平成25年3月21日に大沢保育園の竣工記念式典が行われました。式典では台湾赤十字組織の代表の方にもご来園いただき、支援に対する感謝状を贈らせていただきました。出席された、台湾赤十字組織の季鴻鈞(リー・ホンジュン)理事は「2年が過ぎ、ある程度は落ち着いたように見えるが、復興にはまだ時間がかかる。台湾は今後もできる限りの応援を続けていく」と述べられました。また園児たちが多くの支援に感謝を込め歌と踊りを披露いたしました。

安全に使いやすく

被災地での新園舎の建替えでは災害に備える施設計画に配慮しました。敷地は最大で約5mの嵩上げをし津波の浸水に備え、仮に園舎内まで津波が来た場合でも高い位置での避難をするため遊戯室の上部にキャットウォークを設けました。キャットウォークからは湾内を一望でき外部の状況を容易に把握できる施設となっています。また安全に加えて利便性にも配慮しました。限られた敷地での計画のため遊戯室には昇降式ステージを設置、約30cmのステージとして歌や踊りを披露する発表の場となり、日常はステージを下げ子どもたちが駆け回る広い遊戯室となります。



玄関



乳児ほふく室



遊戯室(昇降式ステージ)



4歳児・5歳児室



3歳児室

平面図・配置図

